

「神のことを思う」

マルコの福音書 8:31~33

はじめに

ヘブル語で言葉、神の御言葉のことをダーヴァール(דָּבָר)と言います。実はこれとまったく同じ綴りで、デヴェル(דָּבַר)と発音する言葉があります。その意味はなんと「疫病、伝染病」です。最近世界中で新型コロナウイルスによる感染症の被害拡大に関する情報が取り上げられていますが、このような疫病、伝染病で最も恐ろしいのは病気の症状ではなく、このダーヴァールとデヴェルが表しているように、正しい言葉が変質した言葉、間違った言葉、つまり正確ではない誤情報、偽情報、デマと呼ばれるものです。間違った情報が人々を恐れさせ、惑わし、混乱させ、その被害はいつそう大きなものとなります。いやむしろこのデヴェルが指し示す正しくない言葉、偽情報こそが最も危険な疫病と言えるでしょう。ですから私たちはこんな時だからこそなおさら、デヴェルではなくダーヴァール、神の御言葉、聖書に目を留める必要があります。そして神からの正しい情報、正確なニュースに耳を傾け、誤情報に惑わされないようにしていただきたいと思います。

1. 多くの苦しみ

【新改訳 2017】 マルコの福音書

8:31 それからイエスは、人の子は多くの苦しみを受け、長老たち、祭司長たち、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日後によみがえらなければならないと、弟子たちに教え始められた。

8:32 イエスはこのことをはっきりと話された。するとペテロは、イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。

8:33 しかし、イエスは振り向いて弟子たちを見ながら、ペテロを叱って言われた。「下がれ、サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」

今日の箇所は、場所は引き続きピリポ・カイサリア地方、異邦人の王ヘロデが治める異教の地です。そこでイエシュアは弟子たちに対して、ご自分についてのこれから起こる出来事を明かされます。すなわち「多くの苦しみを受け、長老たち、祭司長たち、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日後によみがえらなければならない」ということ、つまりイエシュアの十字架の死と、そして復活についてです。前回イエシュアはご自分が誰で、何者であるかということについては、「あなたはメシアです」と言った弟子のペテロの告白に対しては、それを誰にも言わないようにと戒められました。しかしそれとは対照的にここでは、ご自分の身に起こるこの十字架の死と復活の出来事については「イエスはこのことをはっきりと話された。」とあるように、これを隠すことなく明らかにしようとしておられます。イエシュアの十字架の死、この出来事は歴史的事実として今日も私たち教会の間ではもちろんのこと、広く世間一般においても、また実際にイエシュアを死に追いやった「長老たち、祭司長たち、律法学者たち」に代表されるイスラエルの民、ユダヤ人たちの間においても事実であると認識されている出来事です。今日のユダヤ人たちも、自分たちの先祖たちがイエシュアを十字架にかけて殺したことを認め、それを恥じるどころかむしろ誇りさえ感じています。それはイエシュアが神の御子メシアであるという事実が見えていない、理解できてい

ないという、彼らの霊的盲目さのゆえであり、また「自分のことを（メシアであると）だれにも言わないように」というイエシュアの戒めが成就しているためであると言えます。

ここで私たち教会は「三日後によみがえらなければならない」という箇所注目し、イエシュアの復活、死からのよみがえりを思います。しかしこれをヘブル語の視点で見ますと「よみがえる」という意味で使われているクーム(קוּם)は、本来これとはまったく逆の意味を指し示す言葉であると考えられるのです。

創世記【新改訳 2017】

4:8 カインは弟アベルを誘い出した。二人が野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかって殺した。

「襲いかかって殺した。」ここに聖書で最初に使われたクームがあります。ですからこの「三日後によみがえらなければならない」という箇所は、ヘブル語の最初の言及の視点で捉えるならば「三日後まで殺されたままに、三日間死んでいる」という状態を表しており、もちろんそれは三日後によみがえるということにつながるのですが、言葉の強調点としては、よみがえることというよりもむしろ殺される、死ぬことにあると考えられます。ちなみに「三日後」とありますが、古代の数え方は起点を翌日ではなく当日に置くので現代なら二日後、また三日目という意味です。ともかくもここではイエシュアの復活の出来事よりも、ご自分がユダヤ人たちから「多くの苦しみを受け」「捨てられ、殺され」ることを強調して語っておられると考えられます。

2. いさめる

イエシュアのこの御言葉に対し、またしてもペテロが反応します。彼は「イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。」とあります。イエシュアの中にイスラエルを再興させる王としてのメシアを期待していた者たち、当初の彼にとってイエシュアが殺される、死ぬという状況は完全に想定外であり、到底理解できない、受け入れられないものであったことでしょう。「一体なぜそのようなことを言われるのですか！」「なんてこと言うんだ！」というような、怒りにも似たペテロの様子がうかがえます。しかしこれに対してイエシュアは逆に「下がれ、サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」と痛烈な表現を用いて「ペテロを叱って言われた。」ともあり、非常に印象的、衝撃的な箇所となっています。一体ここにはどのような神のご計画が表されているのでしょうか。まず、ここに描かれているイエシュアとペテロのそれぞれの言動に注目してみますと、

- ・ペテロはイエシュアを「いさめた」
- ・イエシュアはペテロを「叱った」

という状況があり、この「いさめた」また「叱った」は、ヘブル語では実はどちらもガーアル(גָּאַר)という同じ言葉が使われており、最初の言及は創世記 37:10 の出来事です。

創世記【新改訳 2017】

37:9 再びヨセフは別の夢を見て、それを兄たちに話した。彼は、「また夢を見ました。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいました」と言った。

37:10 ヨセフが父や兄たちに話すと、父は彼を叱って言った。「いったい何なのだ、おまえの見た夢は、私や、おまえの母さん、兄さんたちが、おまえのところに進み出て、地に伏しておまえを拝むというのか。」

37:11 兄たちは彼をねたんだが、父はこのことを心にとどめていた。

これはアブラハムの子イサクの子ヤコブ（すなわちイスラエル）の子ヨセフが見た夢についてのもですが、父ヤコブがヨセフを「叱って言った」という箇所には聖書で最初のガーアルが使われています。つまりガーアルは本来、ヨセフが見たこの夢を指し示すものであり、それは「私や、おまえの母さん、兄さんたちおまえのところに進み出て、地に伏しておまえを拝む」、つまりヤコブの家族がヨセフを拝むようになるという意味として受け取られています。この夢は後に創世記 42:6 でヨセフがエジプトの地一帯の権力者となった時に成就したとも考えられますが、これもまた神のご計画を表す型の一つであり、その完全な成就是、ヨセフではなく「ヨセフの子」と呼ばれたイエシュアによって現れます。

ヨハネの福音書【新改訳 2017】

1:45 「私たちは、モーセが律法の中に書き、預言者たちも書いている方に会いました。ナザレの人で、ヨセフの子イエスです。」

ヨセフが見た夢は、「私や、おまえの母さん、兄さんたち」すなわち全イスラエルが「おまえのところに進み出て、地に伏しておまえを拝む」すなわちイエシュアのみもとに集められ、その御前にひれ伏し、聞き従う民となるという神のご計画を指し示していると考えられ、その夢を指し示した「いさめる、叱る」と訳された本来のガーアルもまた同様であると考えられます。ペテロがイエシュアを「いさめ」、そしてイエシュアがペテロを「叱る」ということでここに二度繰り返すように記されたガーアルは、指し示されたこの神のご計画が、「神によって定められ、神が速やかにこれをなさる（創世記 41:32）」ことを表していると考えられます。

3. イエシュアの目

またペテロはイエシュアをいさめる際、「イエスをわきにお連れし」たともあります。まるで自分がイエシュアの親か教師にでもなったかのような、ペテロの高慢な態度としても見ることはできますが、ここにはラーカハ(נִקְּחָהּ)という言葉が使われており、これは本来、神が人を連れて来て、エデンの園に置くという意味で使われた言葉です。

創世記【新改訳 2017】

2:15 神である【主】は人を連れて来て、エデンの園に置き、そこを耕させ、また守らせた。

ですからペテロのしたこの行為は、彼の高ぶりによる、誤ったものとして見るだけでなく、彼の犯したその過ちさえも用い、イエシュアこそがエデンの園の回復である「神の国」を治め、守るために「来られる」最後のアダム（I コリント 15:45）、真のアダムであるということが指し示されていると考えられます。

そして一方イエシュアはペテロを叱られる際、彼だけでなく「弟子たちを見ながら」言われたとあります。ここに使われている「見る」という意味のナーヴァト(טָרַח)は本来、神がアブラハムに約束された以下の御言葉を指し示すものです。

創世記【新改訳 2017】

15:5 「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」さらに言われた。「あなたの子孫は、このようになる。」

神はかつてアブラハムに「天を見上げなさい。…あなたの子孫は、このようになる。」と仰せになり、そこに聖書で最初のナーヴァトがあります。イエシュアの目は常に神がアブラハムに約束されたそのご計画に向けられています。アブラハムの子孫であるイスラエルの民が神の祝福により、天の星々のように大いに増えること、繁栄することがその成就であるということ、それがイエシュアの弟子たちへの眼差しには表されていると考えられます。またイエシュアは「下がれ、サタン。」という強烈な一言をも発せられましたが、この御言葉にはイエシュア見ておられるもう一つのもの指し示されています。ここには「離れる、脇へ逸れる」という意味のスール(רָחַק)という言葉が使われているのですが、この言葉は本来、「覆いを取り払って眺める」という意味を持った言葉です。

創世記【新改訳 2017】

8:13 六百一年目の第一の月の一日に、水は地の上から干上がった。ノアが箱舟の覆いを取り払って眺めると、見よ、地の面は乾いていた。

かつて地上のすべての生物を滅ぼした大洪水が起こりました。ノアの箱舟に乗ったものたちだけが生き残り、後にその箱舟の屋根「覆いを取り払って」再び地上を見た、という出来事の中に聖書で最初のスールがあります。先ほどのナーヴァトは天を見上げること、そしてこのスールは逆に「地の面」地を見ることを指し示した言葉であると考えられ、イエシュアの目は天と地の両方に向けられており、これを一つにすること、すなわち

マタイの福音書【新改訳 2017】

6:9 ですから、あなたがたはこう祈りなさい…

6:10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように。

という祈りが成就することであることが表されていると考えられ、それが「御国が来ますように」という「神の国」の到来、完成を指し示していると考えられます。つまりペテロの行為には、イエシュアは回復されたエデンの園である「神の国」の王であることが、そしてイエシュアの言動にはイスラエルの民に対する神の約束、契約と、「神の国」が天だけでなくこの地上にも来る、建てられることが指し示されていると考えられます。

4. 神の御言葉

このような解釈は、「神のことを思わないで、人のことを思っている」者すなわち「神の国」のことを思わないで、人の国、人のことばかりを思う人、人間的な考え、尺度でしか物事を計れない人には理解することも、受け入れることもできません。それはまさに覆いがかかって見えない状態と言えます。イエシュアが言われたスール「下がれ、」という言葉に表されていたように、「神のことを思」うには、「人のことを思」うという「覆いを取り払って眺める」必要があるのです。この「神のこと」また「人のこと」という言葉にはダーヴァール(דָּבָר)「言葉」という意味の言葉が使われており、つまり「神のこと」とは、神の語られる、神の御言葉のことなのです。

創世記【新改訳 2017】

8:15 神はノアに告げられた。

8:16 「あなたは、妻と、息子たちと、息子たちの妻たちとともに箱舟から出なさい。

8:17 すべての肉なるもののうち、あなたとともにいる生き物すべて、鳥、家畜、地の上を這うすべてのものが、あなたとともに出るようにしなさい。それらが地に群がり、地の上で生み、そして増えるようにしなさい。」

これは聖書で最初のダーヴァール、ここでは「告げられた」、「言う」という動詞形ダーヴァール(דָּבָר)として使われていますが、ここに本来の「言葉」ダーヴァールが指し示す意味があると考えられます。先にも述べましたが、かつてこの地上は大洪水により滅びています。ノアの箱舟に入ったものだけがその滅びを免れ、その後再び地上に生かされるものとなりました。このようにダーヴァールには神のご計画が表されています。それはすなわち、**神はこの地上を滅ぼされるということ、しかしその滅びを免れる、救われる者もいるということ、そしてその救われた者たちは地上に住まい、繁栄していくということです。そしてそれらがすべて神の御子メシアであるイエシュアによって成し遂げられるということ、それが本来のダーヴァールに指し示された神のご計画、神の御言葉「神のこと」**です。

もう一度言いますが、今のこの時代、この世界、この地上はやがて必ず滅びます。神がこれを滅ぼされ、偽りと罪悪に満ちたこの時代を終わらせられます。しかしそれは神がお選びになった、お救いになる者たちにこの地上をお与えになるためです。地上を刷新し、再びそこに住まわせ、祝福をお与えになるためです。それがメシアであるイエシュアによって治められる「神の国」です。この事実を、この真実をいつも私たちは思い巡らし、その成就、完成に思いを馳せる必要があります。なぜならその時は確実に近づいているからです。

どうか私たちの心と思いが、「人のこと」人の言葉、すなわち神の御言葉、御計画でないものに惑わされたり、悩まされたりすることがありませんように。聖霊によって覆いが取り払われ、神のご計画に目を留めることができますように。